

活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 7 年 4 月 14 日 報告者：西尾 美津留

行事種別	研究会		行事番号	250000221	
開催日	令和 7 年 4 月 5 日（土）				
時 間	開 始	14 時 00 分		終 了	17 時 00 分
場 所	所在地 名古屋市 JA あいちビル 14 階大会議室				
テーマ	『何か変』に気づくための感度を高める				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	小牧市民病院 西尾 美津留				
講 師	1. まずは正しいを知る。微生物検査技師の基本のキ 八千代病院 山口 杏理沙 2. 『何か変』を見逃さない精度管理とは？ 藤田医科大学病院 松井 建二郎 3. ケーススタディから学ぶ！ 『何か変』に気づくための実践的アプローチ 医療法人豊田会刈谷豊田総合病院 木元 真帆 4. 問題解決能力を高める思考法とテクニックを学ぶ 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 原 祐樹				
内 容	今年度テーマ：「キャリア段階で考える、微生物検査技師として必要なスキルとは？」 本年度は、微生物検査技師としてのキャリア形成において必要なスキルを各段階で考察することを年間テーマとし、その第一弾として研究会を開催した。今回の研究会では、「『何か変』に気づく」ために必要な要素について、多角的な視点から考えるべく、4つの講演を実施した。講演 1 では、通常の講義ではあまり取り上げられない“基礎の基礎”に焦点を当て、微生物検査の出発点とも言える重要事項について丁寧な解説が行われた。日常業務を見直す契機となる講演であった。講演 2 では、標準化が進んでいない現状にある微生物検査の精度管理について、限られた環境下でも可能な手法と、結果の管理から異変に早期に気づくための視点について具体的に紹介された。講演 3 では、症例を基に、“『何か変』に気づく”ための実践的なアプローチが提示された。日々の検査業務と直結する内容であり、参加者にとって有益な学びとなった。講演 4 では、問題解決手法を取り上げた。これまで感覚的に行われてきた問題対応に対し、理論的かつ体系的なアプローチの概要を提示し、問題解決の第一歩となる考え方を習得する機会を提供した。いずれの講演も熱意のこもった内容であり、講演後には活発な質疑応答が行われ				

	た。基礎から応用まで幅広い内容を網羅した本研究会は、あらゆるキャリア段階の技師にとって有意義な学びの場となったと考える。
参加者	総数：71 名（会員 67 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 4 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：54 名
共催、後援など	

2022.10.12

活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 7 年 7 月 7 日 報告者：西尾 美津留

行事種別	研究会		行事番号	250002414	
開催日	令和 7 年 7 月 5 日(土)				
時 間	開 始	14 時 00 分	終 了	17 時 00 分	
場所・配信	JA あいちビル 14 階大会議室 （所在地 名古屋市）				
テーマ	キャリア段階で考える 血液培養検査の臨床貢献とは？				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	J A 愛知厚生連安城更生病院 杉浦 康行				
講 師	1. 血液培養検査についての基礎知識 – 患者貢献のために知っておくべきこと – 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター 松尾 由佳 2. 感染症のフィジカルアセスメントとバイオマーカーを知る 藤田医科大学岡崎医療センター 松野 貴洋 3. ケーススタディから学ぶ！血液培養実践編 日本海員救済会名古屋救済会病院 三谷 有生 4. 血液培養における AST と ICT – 迅速報告と多職種連携 – J A 愛知厚生連安城更生病院 河内 誠				
内 容	本年度は、微生物検査技師としてのキャリア形成において必要なスキルを各段階で考察することを年間テーマとし、その第 2 弾として「血液培養検査の臨床貢献とは？」を題材に研究会を開催した。日常業務において重要な位置を占める血液培養検査について、キャリア段階ごとの学びを意識し、4 つの視点から講演が行われた。 講演 1 では、微生物検査の初学者が押さえておくべき基本的事項について、臨床貢献の視点を交えて丁寧に解説された。検査の背景や意義を再確認することで、日々の業務に対する理解を深める内容が共有された。講演 2 では、感染症診療における評価指標と微生物検査との関わりについて、多角的に紹介された。微生物検査結果を正しく解釈し、臨床と連携するために必要な視点を学ぶ機会となった。講演 3 では、実際の症例をもとに、検査の実践力を高めるアプローチが示された。血液培養検査ための注意点や工夫、現場での判断力を養う重要性が具体的に共有された。 講演 4 では、血液培養における迅速報告と多職種連携の重要性について、AST（抗菌薬適正使用支援チーム）と ICT（感染制御チーム）の役割から解説された。質量分析や遺伝子検査、迅速感受性検査の活用による治療支援の実例に加え、血液培養の提出状況や				

	汚染率などの指標を用いた介入の必要性について紹介された。また、SBAR や TeamSTEPPS といったツールを通じて、チーム医療における検査技師のコミュニケーションスキルの重要性も強調された。 いずれの講演も、現場で求められるスキルや視点を各段階で再確認・強化できる内容であり、参加者からは活発な意見交換と質疑が寄せられた。キャリアの初期から専門性の高い実践力まで、幅広くカバーされた本研究会は、血液培養業務の質向上と、微生物検査技師としての臨床貢献を再考する機会となった。
参加者	合計：87 名（会員 77 名、県外会員 0 名、講師 4 名、実務委員 3 名、非会員 0 名、賛助会員 3 名、学生 0 名、その他 0 名）事前参加申込数：74 名
共催、後援など	

活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 7 年 8 月 3 日 報告者：西尾 美津留

行事種別	研修会		行事番号	250002436	
開催日	令和 7 年 8 月 2 日(土)				
時 間	開 始	13 時 00 分	終 了	17 時 00 分	
場所・配信	リップルスクエア（アーバンネット名古屋ビル 20F）（所在地 名古屋市）				
テーマ	ステップアップ！学会発表・論文投稿のスキルを磨く				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	小牧市民病院 西尾 美津留				
講 師	1. 各種微生物検査機器の特徴を知る 愛知医科大学病院 坂梨 大輔 2. 文章作成・校正能力を高める J A 愛知厚生連安城更生病院 河内 誠 3. わかりやすいスライド作成の大原則 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 原 祐樹				
内 容	本研修は、中堅者にむけた新設事業として開催した。 微生物検査の分野では、認定臨床微生物検査技師の育成が、各種専門学会が想定するペースで叶っていないのが現状であり、愛知県内においても同様の傾向が見られる懸念があった。認定技師の取得には学会発表 3 回および筆頭著者としての論文執筆 1 編が必須であり、これらの課題達成のためにも学会発表・論文投稿のスキルアップ講習は必要度が高かった。 今回はそれらを目的に 3 つの講義と、グループワークを通じた実践的なスキルアップを目指して、本研修を企画・実施した。 研修テーマは「ステップアップ！学会発表・論文投稿のスキルを磨く」と題し、参加者には事前課題として文書またはスライドの作成を求め、研修当日はそれらを用いて実践的な学びを深めた。 講義 1 では、自動薬剤感受性測定機器を中心に、検査機器の性能・測定原理・運用面の比較や検討のポイントが解説された。プレゼンテーションにおける「承認を得る」ための情報整理の視点から、導入を提案する際の説得力のある資料作成法にも言及され、情報の受け手の立場を意識した表現の重要性が示された。 講義 2 では、業務文書や学会抄録、論文などあらゆる文章において求められる「伝わる				

	文章」の書き方について解説がなされた。添削・校閲・校正の違いから始まり、「一文一義」や「PREP 法」、「5W1H の整理」などの基本原則を軸に、読み手の理解を助けるための構成・表現技術が多数紹介された。 講義 3 では、「わかりやすいスライド作成の大原則」と題し、学会発表や職場内プレゼンなどに共通するスライド作成の基本原則について講義が行われた。フォントや色使い、図表の整え方、行間や改行位置の配慮、スライド枚数の設計など、見栄えの良さだけでなく「伝える」ことに主眼をおいた実践的なポイントが共有された。また、事前課題を例に、読み手に納得してもらうための論理展開の工夫や説得材料の精度にも焦点が当てられた。 当日は 4 つの班に分かれてグループワークを実施し、各自が取り組んだ事前課題について、講義内容をもとに意見を出し合いながらブラッシュアップを行った。互いの資料を読み合い、率直な意見や改善案を交換することで、自身では気づきにくい表現上の課題に気づくことができた。職場内では得がたいフィードバックを受ける機会として、参加者からは「貴重な学びになった」「他施設の視点が参考になった」といった声が多く寄せられた。 文書・スライド作成の基本から応用に至るまで体系的に構成された講義とグループワークを組み合わせることで、受講者はその場でフィードバックを得ながら表現力を磨くことができた。 中堅者に向けたこのような実践的・対話型の研修は、認定資格の取得を目指す技師や、今後指導的立場を担う人材の育成において非常に重要であると実感している。知識やスキルの継承とともに、他施設との交流を通じた視野の拡大にもつながる貴重な場となった。 本研修は単発で終わらせるのではなく、継続的な取り組みとして今後も実施していきたい。
参加者	合計：28 名（会員 17 名、県外会員 4 名、講師 3 名、実務委員 4 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）事前参加申込数：22 名
共催、後援など	

活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和7年9月7日 報告者：西尾 美津留

行事種別	研究会		行事番号	250007475	
開催日	令和 7 年 9 月 6 日(土)				
時 間	開 始	14 時 00 分	終 了	17 時 00 分	
場所・配信	JA あいちビル 14 階大会議室 （所在地 名古屋市）				
テーマ	薬剤耐性菌について学びを深める				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	小牧市民病院 西尾 美津留				
講 師	1. 化学療法についての基礎知識 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 寺本 侑弘 2. 薬剤耐性菌を学ぶ：陽性球菌編 J A 愛知厚生連知多厚生病院 松田 唱吾 3. 薬剤耐性菌を学ぶ：陰性桿菌編 J A 愛知厚生連安城更生病院 野村 杏奈 4. 検査結果を臨床に活かすには－難解症例に対する専門的アプローチ－ 愛知医科大学病院 坂梨 大輔				
内 容	本年度は、微生物検査技師としてのキャリア形成に必要なスキルを各段階で考察することを年間テーマとし、その第 3 弾として「薬剤耐性菌について学びを深める」を題材に研究会を開催した。薬剤耐性菌への理解を深め、基礎から臨床応用まで段階的に学ぶ構成とし、4 つの視点から講演が行われた。 講演 1 では、抗菌薬治療に関する基本的事項が整理され、微生物検査の基礎知識とともに臨床現場での活用を意識した解説がなされた。講演 2 では、陽性球菌を中心に薬剤耐性の機序や検査上の留意点が示され、日常検査に直結する知識が共有された。講演 3 では、陰性桿菌を題材とし、現場で頻繁に遭遇する耐性菌の特徴や対応の工夫が取り上げられた。講演 4 では、難解症例を通じて検査結果を臨床にどう結びつけるかが議論され、専門的なアプローチの重要性が強調された。 いずれの講演も、初学者から実践力を高めたい中堅、さらには専門性を追求する上級者に至るまで、それぞれの段階で必要なスキルを再確認できる内容であり、参加者からは活発な質疑や意見交換が寄せられた。本研究会は、薬剤耐性菌への対応力を強化し、微生物検査の臨床的価値を高める契機となった。				

参加者	合計：93名（会員80名、県外会員4名、講師4名、実務委員3名、非会員0名、賛助会員2名、学生0名、その他0名）事前参加申込数：83名
共催、後援など	

活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 7 年 10 月 6 日 報告者：西尾 美津留

行事種別	基礎講座	行事番号	250009343
開催日	令和 7 年 10 月 5 日(日)		
時 間	開 始	9 時 00 分	終 了 16 時 30 分
場所・配信	名古屋大学大学院医学系研究科 基礎研究棟 3 階 (所在地 名古屋市)		
テーマ	微生物検査、はじめの一步！血液培養 ケーススタディ入門		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	日赤愛知医療センター名古屋第二病院 原 祐樹 J A 愛知厚生連 安城更生病院 杉浦 康行		
講 師	1. 症例① J A 愛知厚生連 江南厚生病院 宮澤 翔吾 2. 症例② J A 愛知厚生連 知多厚生病院 松田 昌吾 3. 症例③ J A 愛知厚生連 豊田厚生病院 加藤 雄大 4. 症例④ 八千代病院 山口 杏理沙		
内 容	本年度の基礎講座は、「微生物検査、はじめの一步！血液培養 ケーススタディ入門」をテーマに開催した。 微生物検査に初めて携わる技師や、基礎から学び直したい技師を対象に、血液培養検査を体系的に学ぶ構成とした。 午前の実習では、4 つの血液培養陽性症例を題材に、検査開始から最終報告までの一連の流れを通して学習を行った。班員が随時アドバイスをを行いながら、検査を進める際の考え方や、臨床へ有用な情報をどのように伝えるか、また電子カルテなどから検査に有益な情報を得る重要性について体感できる内容とした。 実習は、経験年数に応じて初級・中級の 2 クラスに分け、参加者 2～3 名につき班員 1 名が担当する体制とすることで、個々のレベルやニーズに応じた丁寧な指導を行うことができた。 午後の講義では、午前中に取り組んだ症例をもとにフォローアップを行い、結果の解釈や臨床的意義についてさらに理解を深めた。		

	講座全体を通じて、参加者は血液培養検査の基本的手技や判断のポイントを再確認するとともに、臨床医との情報共有やチーム医療を意識した思考力を養うことができた。 アンケートでは、「症例形式で学べて理解が深まった」「日常検査の課題に直結する内容だった」といった意見が多く寄せられ、今後の検査精度向上や報告の質の改善に資する有意義な研修となった。
参加者	合計：60名（会員41名、県外会員0名、講師4名、実務委員15名、非会員0名、賛助会員0名、学生0名、その他0名）事前参加申込数：41名
共催、後援など	

活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 7 年 12 月 8 日 報告者：西尾 美津留

行事種別	講演会		行事番号	250015205	
開催日	令和 7 年 12 月 6 日(土)				
時 間	開 始	14 時 30 分	終 了	17 時 00 分	
場所・配信	JA あいちビル 14 階大会議室 （所在地 名古屋市）				
テーマ	ここまでわかる呼吸器感染症 －微生物検査技師が知っておくべき検査のポイント－				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	小牧市民病院 西尾 美津留				
講 師	4. 「君が気付いていないだけかも？抗酸菌検査のおもしろさ」 公益財団法人結核予防会結核研究所 抗酸菌部 主任研究員 吉田 志緒美 5. 「臨床検査技師のための呼吸器感染症入門～喀痰検査と治療戦略をつなぐ～」 名古屋大学医学部附属病院 中央感染制御部 助教 岡 圭輔				
内 容	本講演会は、微生物検査技師として必須となる呼吸器感染症に関する知識と、検査の実践的理解を深めることを目的として開催した。抗酸菌検査の最新知見から、喀痰検査の読み解きと治療戦略へのつなげ方まで、2 名の専門家による講演が行われた。 講演 1 では、抗酸菌検査の一連の流れに加え、肺 NTM 症における喀痰の採取困難性や、非膿性痰でも診断が可能であることなど、宿主背景を踏まえた検査の重要性が示された。特に、喀痰品質は一般細菌検査と異なり、P2 以下でも抗酸菌検査に不適とはならない点や、高齢者・女性での排痰困難、非膿性痰の背景にある病態など、実臨床で起こりやすい課題が整理され、検査の意義と限界を正しく理解する重要性が強調された。また、薬剤感受性試験や tNGS による耐性予測など、最新の遺伝子解析手法についても分かりやすく紹介された。 講演 2 では、喀痰検査を呼吸器感染症の診療ロジック（患者背景・感染臓器推定・原因微生物・治療薬選択・経過観察）と結びつけて理解する重要性が示された。一般細菌検査と抗酸菌検査の違い、喀痰の性状分類（Miller & Jones、Geckler 分類）と診断への影響をはじめ、数多くの症例を用いて、グラム染色や迅速検査の読み方、治療方針への具体的な反映方法を解説された。また、唾液のような不適切検体のリジェクト判断が難しい事例や、過度な遺伝子検査依頼の問題など、現場で直面する実務上の課題にも踏み込んだ内容で、技師が臨床と連携する上での視点が整理された。				

	両講演を通じ、呼吸器感染症の検査を「検査技術」だけでなく「臨床につなぐ判断」として捉える重要性が共有された。喀痰採取の工夫、検査意義の説明、検査結果の読み解き、治療戦略への寄与といった多方面で、日常業務に直結する知識が得られた。質疑応答では検査の適応判断や検体品質評価、臨床との情報共有のあり方などについて活発な議論が交わされ、有意義な講演会となった。
参加者	合計：66名（会員60名、県外会員0名、講師2名、実務委員3名、非会員0名、賛助会員1名、学生0名、その他0名）事前参加申込数：65名
共催、後援など	

活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 8 年 1 月 18 日 報告者：西尾 美津留

行事種別	研究会	行事番号	250018714
開催日	令和 8 年 1 月 17 日(土)		
時 間	開 始	14 時 00 分	終 了 17 時 00 分
場所・配信	JA あいちビル 14 階大会議室 (所在地 名古屋市)		
テーマ	教育について考える		
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点		
司 会	J A 愛知厚生連安城更生病院 河内 誠		
講 師	1. 令和 7 年度愛臨技精度管理報告 J A 愛知厚生連安城更生病院 杉浦 康行 2. 臨地実習生教育について J A 愛知厚生連 豊田厚生病院 加藤 雄大 3. ローテーション中の新人教育について J A 愛知厚生連 江南厚生病院 宮澤 翔吾 4. キャリア段階で考える 微生物検査技師の教育－資格取得の意義とは－ 小牧市民病院 西尾 美津留		
内 容	2025 年度の年間テーマ「キャリア段階で考える、微生物検査技師として必要なスキルとは？」の最終回として、「教育について考える」をテーマに開催した。各施設での実践例やアンケート結果を交えながら、教育の在り方について多角的に考える機会とした。 講演 1 では、愛臨技精度管理調査の結果を報告し、併せて感染症法や解釈に注意を要する点についても解説した。続く講演 2、3 では、新人教育や臨地実習生への指導、後輩育成といった現場で直面する「どう教えるか」「どう伝えるか」という課題に対し、より良い学びと成長のサイクルを作るためのヒントが共有された。また講演 4 では、各キャリア段階の役割や資格取得の 6 つの意義を整理し、時間自立性や自己効力感を高めることの重要性を提示した。また自身の経験を通じ、主体的に人生をデザインする「キャリアオーナーシップ」の大切さについて紹介した。 本研究会を通じて、教育する側・される側の双方が共に成長するための視点を共有し、微生物検査技師としてのキャリア形成を再考する有意義な場となった。		
参加者	合計：53 名（会員 45 名、県外会員 0 名、講師 4 名、実務委員 3 名、非会員 0 名、賛助会員 1 名、学生 0 名、その他 0 名）事前参加申込数：43 名		
共催、後援など			